

師を悼む

関西のランドスケープコンサルタンツ界を牽引した井上芳治の足跡

Tracing the Footsteps of Yoshiharu Inoue—Pioneer of the Landscape Consultancy Business in Kansai, Japan

5

中橋 文夫

NAKAHASHI fumio

要旨:井上芳治が逝った。日本造園設計事務所連合、日本造園コンサルタント協会、そして今日のランドスケープコンサルタンツ協会における 50 年の歴史を黎明期・成長期・成熟期と捉えるならば、井上は黎明期・成長期を駆け抜けたといえる。造園設計からランドスケープデザイン、自然再生、マネジメントと、グローバルに広がる私たちの職業領域のニーズを捉え、ビジネスとして道筋を作り、関西のランドスケープコンサルタンツ界を牽引した。本稿では井上の足跡を辿り、その業績を偲んでみたい。

キーワード:造園設計、ランドスケープデザイン、論陣、大地、情

Abstract: Mr. Yoshiharu Inoue, a prominent landscape architect with an illustrious career spanning over 50 years, has passed away. The evolution of his career from a small landscape consultancy business (Japan Landscape Design Office Association) to the Japan Landscape Consultants Association and the Consultants of Landscape Architecture in Japan traces a 50-year period that reflects the evolution of the Japanese landscape planning and design field, ranging from its dawn to its growth and maturity. During this period, Mr. Inoue adapted his considerable abilities to the growing needs of the firm and contributed immensely to its global expansion in areas including landscape planning, landscape design, environmental restoration, and project management. He paved a groundbreaking path in the landscape business and was a leader in the landscape consultant business in the Kansai region. This article traces Mr. Inoue's evolution as a seminal landscape architect and highlights his philosophy and activities to serve as a guidepost for future landscape architects.

Keywords: Landscape plan, Landscape design, Firm stand, Groundbreaking, Emotion

25 1. はじめに

平成 28 年 8 月 9 日、私は鳥取県の米子にいた。そこに、環境設計株式会社代表取締役中野晋氏からメールが届いた。「井上顧問逝去」の知らせに、「すぐ戻る」と返信のメールを打ち、一路大阪に車を走らせた。



写真-1 快気祝いの時(平成 28 年 1 月 9 日)

井上は 3 年前に病を患い、今年の 1 月に快気祝いをしたばかりであったが、その後体調を崩し、これが最後の別れとなった(写真 35 -1)。井上との出会いは南九州大学中退後、園芸高校の恩師、渋谷正幸先生に就職のお願いに上があると、先輩が設計事務所をやっているということで、井上を紹介していただいたのが始まりである。

昭和 47 年 1 月、井上が経営する事務所へ面接に行くと、井上はビシッとしたスーツ姿で表れ、設計してお金をもらうプロのいで立ちを学んだ。面談即決となったが、これは不覚ではなかった。私の能力をチェックしなかったばかりに、担当した仕事は赤

字が絶えなかったからである。

でも井上は、私を辛抱強く使ってくれた。しかも放し飼いだ。結局 34 年お仕えたことになる。その過程を紐解き、大変恐縮だが私のおぼろげな記憶を辿り、関西のランドスケープコンサルタンツ界における黎明期、成長期に焦点を当て、井上の仕事と果たした役割、並びに人間像を足跡としてまとめてみたい。

2. 日本造園設計事務所連合から日本造園コンサルタント協会へ

井上は昭和 16 年、兵庫県尼崎市に生を受けた。戦時中の厳しい生活を経て大阪府立園芸高校から東京農業大学に進学、卒業後、東京コンサルタントに進んだ。その後、近代造園設計研究所大阪事務所の活動に加わり、千里ニュータウンなどの公園緑地設計に携わった。ここに今日のランドスケープコンサルタンツの創業 55 業者が在籍されていた。

ところが、近代造園設計研究所は閉所されたのである。それを期に同士が次々と事務所を設立された。井上も昭和 43 年 1 月に環境設計株式会社を立ち上げた。同時に日本造園設計事務所連合の活動に参加、当時の会員名簿を見れば荒木造園設計事務所、EDA 造園地域計画研究所(環境事業計画研究所)などの数社で、いわゆる造園設計事務所の時代で、コンサルタント、ランドスケープ・景観という用語はそれほど普及していなかった。その時代がわが国のランドスケープコンサルタンツ界の黎明期と私は捉える。(CONSULTANTS LANDSCAPE ARCHITECTURE、以後 65 CLA と表す)。

ここで用語を整理しておく。造園設計事務所は建設コンサルタント登録が認められコンサルタントが用いられるようになったが、日本造園コンサルタント協会からランドスケープコンサルタント協会に改組された折、コンサルタントは発音的にはコンサルタンツが正しいことから、そのように変更された。ここでは文脈の前

後により、コンサルタントとコンサルタンツは適宜使い分ける。

当時の造園業界を俯瞰すれば、国策として、第一次都市公園五箇年計画(昭和 47 年～昭和 51 年)がスタートしたばかりで、当初事業費は 9,000 億円⁽¹⁾だった。関西では大阪万博、千里・泉北ニュータウン開発などのビッグプロジェクトが目白押しで、公園緑地の設計が多かった。私はコピー(青焼き)、トレスなどの雑務に追われたが、井上からプレイロットの設計をやってみるかといわれたが幼稚なデザインは赤で分からなくなり、イラストマーカの使い方はその時に教えて頂き、今日、学生指導の原点となっている。技術士の「都市及び地方計画」領域に公園緑地が位置付けられ、公共造園のすそ野が広がり、それが追い風となり、井上は国営公園、ニュータウン・衛星都市の公園緑地設計はもとより、動物園、浄化センター、墓地公園、日本庭園などの設計に領域を広げていった。こうして造園コンサルタントの存在感が官公庁で高まり、日本造園設計事務所連合も日本造園コンサルタント協会に改組され、全国組織として発展していった。当時の建設省において、技術士取得により建設コンサルタント登録が認められ、井上も早々と取得し、上昇気流に乗り始めたのである。

20 3. 機上から日本列島が見える伊丹市昆陽池公園

昭和 47 年に設計した兵庫県伊丹市昆陽池公園が井上の出世作といってよい。もう 43 年前のことだ。当時昆陽池は阪神間で唯一、ソビエトからカモなどの渡り鳥の飛来地として知られ、伊丹市はこれらを守るために野鳥公園の整備に着手した。井上は委託を受け、27ha のため池の真中に日本列島をかたどった島(1ha)を配す野鳥公園を設計した。日本列島改造論全盛の時代に、山を削り池や海の埋め立て事業が横行するなかで、池を守り野鳥公園を造るとは、時代に逆行する事業に世間は驚いたが、自然保護の兆しが見え始めた頃でもあった。

野鳥の島をどうするかと議論された。伊丹市の市章などが候補に上がったが、なんといっても日本列島改造論の時代で、日本列島の形にした。狙いはもうひとつあり、護岸形態がリアス式海岸の凹凸で、鳥の営巣地として格好の条件を備えていたからである。また、鳥にとって最大の天敵である人間を近づかせないためでもあった。もちろん、上空を飛行機が飛ぶことから、機上からの景観を意識したのは明白である。アイディアは当時の緑政部長から頂き、井上が具現化したのである。

工事費は三億円と記憶し、造園・土木・建築・機械設備の技術が必要とされた。当時井上は三十路に入ったばかりで、しかも 7 人～8 人の造園設計事務所、このような仕事が来るとは、今日の厳しい資格審査を見れば考えられない委託であった。

きっかけは井上が描いた一枚のスケッチを伊丹市幹部がご覧になったからである(図-1)。その後、井上は伊丹市に呼ばれ委託の話を持った。

その後、実施設計、現場監理業務が続き、私は監督補助として現場に立った。こうした仕事に繋がったのは一枚のスケッチである。打ち出の小槌はスケッチにあることを学んだ。工事は昭和 49 年に完成し、名僧行基が掘った灌漑池は 1,200 年を経て、野鳥公園に蘇ったのである(写真-2)。

その後の問題は、アオコの発生による水質汚濁とカワウの営巣であった。平成に入った頃だろうか、開発に追われたカワウが野鳥の島に棲みつぎ、糞害により樹木は枯れ、朝日新聞のトップに日本列島 SOS の記事が出た(写真-3)。ゆえに「都市と自然との共生」は容易ではないのである。たやすく口走ってはいけない。解

55 決策はないが、今日、昆陽池公園は国際伊丹空港の離陸コース直下に日本列島が見える公園として知られている(写真-4)。



図-1 カモが舞い上がる野鳥公園のイメージ⁽²⁾



写真-2 緑繁る昆陽池公園⁽²⁾



写真-3 白いのはカワウの糞、樹木は枯れ日本列島は死の島へ⁽³⁾



写真-4 機上から見る⁽⁴⁾

4. 国際沖縄海洋博覧会の会場設計

昭和 50 年、沖縄の本土返還を記念した「国際沖縄海洋博覧会」が沖縄県本部町で開催された。大阪万博 5 年後の本格的な国際博覧会でもあった。今、振り返れば、わが国のランドスケープアーキテクトは博覧会、オリンピックの会場設計を檣舞台に活躍し、コンサルタント界は進化して来たといえる。

そのなかで、井上は関西の造園コンサルタントから唯一、会場設計を受託した。東京の大手コンサルタントとの共同受託であったが、関西での実績が評価されたのであろう。船クラスター広場の設計で、当時、太平洋を単独航海に成功されたヨットの堀江謙一氏の偉業を称えた広場の設計と記憶している。

今日の博覧会場の設計は、人間の収容力を算定し、動線、滞留空間容量を導き、平日、休日時の利用状況のもとで空間を設計するなど科学的に行われるが、当時の私は知る由もなく、先輩から言われるまま図面を引いた。

10 こうして私は設計補助員の仕事を楽しんだが、驚くべき行動に出たのである。現場監理助手として沖縄に派遣される予定であったが、当時夜間の短大に通い、密かに4年生大学への進学を企て、すでに合格通知を頂いていた。そこに沖縄へ行けとの辞令が出たが、私は「大学に行かして下さい」と懇願すると、当時の幹部は15 驚き激怒され、すかさず「首や」と言われたのである。そこで後ずさりをして学ぶ機会を逃すと思い、ここは誠意をみせるしかないと考え、思いきって頭髪を剃り上げたのである。翌日、テカテカに青光る頭を下げると井上は「ギョッ」とした。しかし、次第と苦笑いになり、首は取り下げられ大学進学は許されたのである。20 正に剃髪の一戦であった。

こうして一件落着を見たが、肝心の博覧会は本土からあまりにも遠いことから入場者数が低迷し、エントランスに軒を並べた土産物屋は倒産の憂き目にあったそうだ。関西から飛行機で約2時間半、那覇から高速道路で3時間を要する本部町迄のアクセスの25 悪さが失敗の原因といえる。

5. 土を撒いて林を造った大阪府箕面川ダムの植生復元

昭和41年、大阪府が箕面川ダムを整備した折、事業地が箕面明治の森国定公園(963ha)内に位置することから自然の復元が課題であった。時代は高度成長期から安定経済の時代に入り、開発により失われた自然植生の再生復元が求められ、その実践は行政の喫緊の課題で、大阪府河川課は先進的に取り組んだ。そこで指名されたのが井上であった。

ダム建設により裸地化したのり面の植生回復に、「埋土種子の撒き出し(写真-5)」を実践し、自然植生を回復させた。休眠していた種子に光を当て、湿気があると発芽するという仕組みを応用したのである。



写真-5 シガラを組み種子を撒き出す⁽⁵⁾ 写真-6 回復した植生⁽⁵⁾

方法は既に説明されていたが、わが国の本格的な公共事業に導入されたのはこれが初めてで、しかも植樹ではなく、表土に含まれた種子から森に造り上げるところに、植物の遷移を利用して「自然に任す」という考えは、当時脚光を浴び始めた生態学研究の先陣を切り、しかも大幅なコストダウンが図られることから生態学会、造園学会から注目された。つまり今日、造園学会のトレンド的な研究となっているレジリエンスを先取りした、プロジェクト50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

れると周辺の現況林と区別がつかないほどの植生が復元再生し、60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

6. 内需拡大期における公園量産を支える

時代は中曽根政権の元で内需拡大路線が打ち出され、都市公園65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978

から認知され始めた頃で、建築家はもとより、国でさえ、高度で多様な技術を要する国際博覧会の会場設計が、いくら鶴見緑地での設計とはいえ、未経験の造園コンサルタントに出来るのかと、猜疑の視線を送ってきたのである。

- 5 しかしながら CLA の幹部は、花と緑の設計はランドスケープアーキテクトならではの職能と言い切り、全国の CLA 事務所、130 余社が総力を上げて取り組むと断言し、国の公園緑地課の援護射撃もあり、会場計画を CLA が担うようになったのである。これはランドスケープコンサルタンツ界の革命でもあろう。
- 10 課題はコンセプトづくりであったが、当時の CLA 小林治人会長が、東京より新幹線で大阪通いをされるなかで車窓の景観が、山・街・田畑を通過することに気付かれ、これこそ日本の原風景ではないかと閃かれ、それが会場計画に活かされた。すなわち、140ha の会場は山のエリア、街のエリア、野原(田畑)のエリアに
- 15 計画されたのである(写真-7)。



写真-7 花博会場の全景⁽⁷⁾

- 井上は会場設計においてメインゲートと会場サイン設計を担当した。メインゲートの建築設計は坂倉建築研究所大阪事務所との共同作業となり、井上は既存のメタセコイアを活かしてビスタを通し、坂倉は間伐材の角材を網代垣のように組んだファサードをデザインし、これらが一体化して、環境に配慮した和の趣のメインゲートをつくったのである。担当は堀清である。
- 25 サイン計画ではGA設計と組み、会場の複雑な情報を総合説明、誘導、解説サインと区分し、さらにピクトグラフを用いてネットワークを築いた。デザインは山・街・野原のエリアに馴染んだ材質、形を考案して、ランドスケープに馴染みつつもユニバーサルデザインに配慮した、わかりやすいサインシステムを設計したのである。私は参加しなかったが、関西 CLA 界の最盛期であったに違いない。

- 大阪花博を期に、花と緑に対する人々の認識感が変わったものと思われ、町中に花が増え、モダンなランドスケープが再開発やマンションの外構を飾るようになった。しかし井上は見栄えはよいものの、やや軽いデザインに警鐘を鳴らした。造園の好景気は大阪花博をピークに、公園整備の時代に終止符が打たれ、仕事が激減し、公園は管理改修の時代に入り、CLA 界は冬の時代に向いつつあった。

40 8. わが国初の多機能交流拠点事業「阪神尼崎駅前」再開発におけるランドスケープデザイン

- 大阪花博開催と並行して、井上が起居する兵庫県尼崎市が市政50周年を迎え、市は記念事業として阪神尼崎駅前再開発事業に着手した。阪神尼崎駅は尼崎市の表玄関で、駅前には駐車場、バス
- 45 ターミナル、タクシー乗降場が求められ、さらには隣接する庄下

川の親水計画にも配慮しなければならず、これら河川、駅前の道路網と区別した、安全な歩行者空間の計画が課題であった。

- いわゆる駅前の高度な立体機能、人と車の多様で複雑な動線処理、そして公害の町尼崎のイメージを払拭する、新たな文化的景観創出のデザインが求められ、これこそ建築・土木・造園が三位一体したコンサルタント業務でもあった。そのランドスケープデザインを井上が担うことになった。しかも建築土木造園を統括した基本構想の策定も井上に委ねられたのである。井上は尼崎市において、長年、都市美形成審議会の委員を務め、これまでの実績
- 55 を見ると当然の指名である。

- 尼崎市が着目したのは、当時建設省が掲げた「多機能交流拠点事業」で、都市公園を核として賑わいを取り戻し、地域を活性化させる拠点づくりを全国自治体から募ったのである。幸いなことに阪神尼崎駅前には近隣公園が設置されており、尼崎市はこれを
- 60 活用して事業に名乗り出ると、わが国初の多機能交流拠点事業として採択されたのである。

- まず井上が手掛けたのは汚染された庄下川の再生で、護岸堤にクラシックな街路灯を配しプロムナード風に改め、河道内には壁泉の設置とライティング、そして祭りの復元などに取り組み、今日では夏祭りに船が出る程、市民から親しまれている(写真-7)。
- 担当は横山浩二である。

- 次に駅前事業では1階にバスターミナル、タクシー乗り場が、地下に駐車場が配され、その屋上が広場となり、噴水・滝岩組・池・レストコーナーなどを設計した。地下ターミナルの採光を目的としたトップライトはルーブル美術館の新館をモデルにして、三角錐のデザインは目を引く(写真-8)。そこから、庄下川を跨いでアルカイックホールに伸びるペデストリアンデッキが尼崎駅からよく見え、品格のある都市景観を呈している。担当は堀清である。

- こうした施設はインフラそのもので、今日、国がいうところのグリーンインフラの先陣を切ったといつてよい(写真-9)。しかも建築、土木を造園が主導するという、今日ようやく叫ばれるようになったランドスケープ・アーバンイズムの先駆けでもある。

- 尼崎は熱狂的な阪神タイガースのファンが多い地として知られる。夏のナイターシーズンにもなると、阪神ファンが駅前広場の階段に鈴なりとなり応援し、六甲おろしを歌い上げる光景は圧巻で、ここにもランドスケープデザインの効果を見た。

- 完成して20年ほど経過して、阪神・尼崎駅前の多機能交流拠点事業はグリーンインフラとして人々の生活や日常景観として溶け込み、やすらぎのあるランドスケープを醸成し、尼崎市の文化的景観を形成している。



図-4 阪神尼崎駅前再開発事業の全景



写真-7 夏祭り⁽⁸⁾



写真-8 駅前奥上部のトップライト



写真-9 水と緑が馴染む庄下川の夕暮れ⁽⁸⁾

9. ジャパンフローラ 2000 淡路花博

平成 7 年に阪神・淡路大震災が起り、予定されていた淡路花博の開催が危ぶまれたものの、逆に復興のシンボルとなり、平成 12 年、国際園芸・造園博「ジャパンフローラ 2000」淡路花博が開催された。当時井上は CLA 関西支部長の立場にあり、基本構想時から夢の架け橋記念協会から相談を受け、会場構想を練っていた。

事業地は現淡路市にあり、現場は関西新空港人工島造成用の土砂採取場に充てられたため、赤茶けた地肌が露出した荒野と化していた。兵庫県の構想は明石海峡大橋架橋を記念してジャパンフローラ 2000 を開催し、その跡地に国営明石海峡公園を整備するもので、当時の兵庫県知事貝原俊民氏の行政手腕の賜物であった。このように、荒野の大地を自然再生し、国際博覧会を誘致して、国営公園に整備するという事業において、自然の再生復元と人の交流が喫緊の課題であることから、兵庫県は基本理念として「人と自然のコミュニケーション」を示した。兵庫県が特に力を入れたのは、会場背後に屏風のようにそびえ立つ、長大のり面の自然再生で、岩盤に植栽基盤を施し、苗木を植える工事は困難を極めたが兵庫県は克服し、今日では「自然林ではないか」と見違えるほど回復している。これが、淡路花博の最大の成果と私は捉える。

井上は会場のランドスケープ計画をとりまとめた。プラン策定においては CLA 関西支部の合同チームを立ち上げ、ゾーニングは「にぎわいゾーン」、「フローラゾーン」、「夢舞台ゾーン」として各チームをマネジメントした(図-5)。

自らも兵庫県の庭「大地の景」の設計に取り組んだ。デザインは、兵庫県は山国であることから、阪神淡路・丹波・但馬・西播・東播などの県土特性を日本庭園の築山で表現し、懷部を帯状の花

で彩りミストを備えた。縦横に広がる地形の柔らかな曲線美にやすらぎを覚え、ミストに浮かぶ築山のシルエットは幻想的でもあった。このデザインは井上が当初から決めていた節が窺える。あまりスタッフの意見も聞かず、自らデッサンし現場に立ち、すべてを統括したからである。その情熱溢れる姿勢に、関係者はただ圧倒されるばかりであった。

工事は会場全体の広場、園路、出展庭園と 98ha のランドスケープ事業を一括して行わなければならず、井上は神戸、淡路島の造園会社と CLA の共同組織の立ち上げ、並びに工事の進行に協力し、工程管理、品質管理、安全管理は事なきことを得て、ジャパンフローラはオープンしたのである。杉井昌勝、久田芳弘、中橋が担当した。

国際ガーデンデザインコンペも開催された。構想段階では夢舞台に高層ビルが建つ予定であったが、地下に断層が走ることから計画は見直され、建物を水平に切断したところ 100 個の基礎が出てきたことから、それを花壇に見立て、兵庫県は「百段苑」と称し、そのデザインを国際コンペにかけたのである。井上はコンセプトを「夢紀行・世界のキク科植物とのであい」とし、国際博覧



図-5 淡路花博会場全体計画⁽⁹⁾

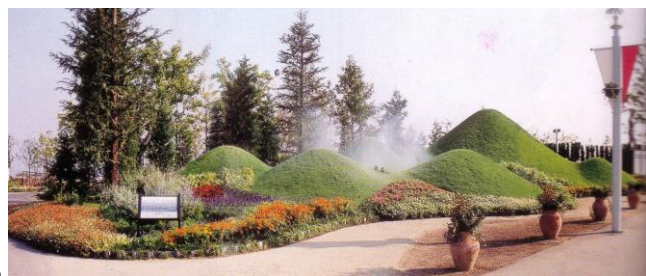


写真-10 兵庫県の庭 大地の景⁽⁹⁾

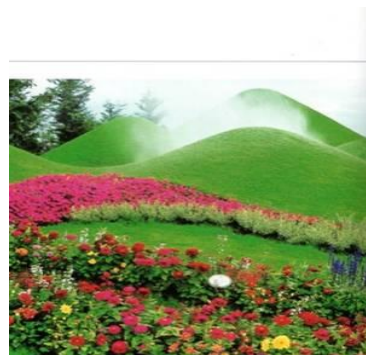


写真-11 築山⁽⁹⁾

会であることから世界中のキクを集め、世界地図を描くというデザインを提案した。なぜキクを用いるのかと聞くと、1.兵庫県の花がノジギクであること、2.キクは乾燥に強いこと、3.コスモスもキク科であるように、思いもがけない花がキクで世界中に自生

し多様であること、4.キクは阪神・淡路大震災で亡くなった方の鎮魂花になること、などの考え方が認められ、井上は最優秀に輝いた。アイデアは横山浩二である。

このように書けば万々歳だが、炎天下の地に花壇のコンペを行うとは、サボテンでも植えておけば済む話だが、いくら園芸の祭典だからといって「植物の本質を考えていない」という声が聞かれ、それは正論といえる。

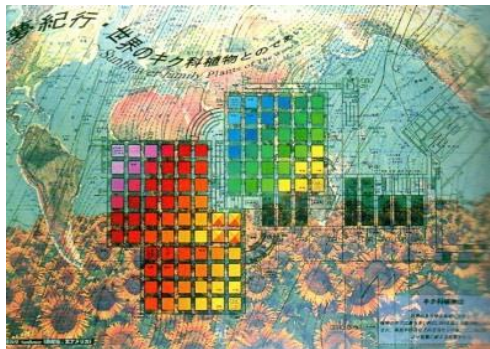


図-5 百段苑のコンペ案⁽⁹⁾



写真-12 完成した百段苑 花博時⁽¹⁰⁾

10. ランドスケープコンサルタンツ界における井上の動向

ここで繰り返になるかもしれないが、井上の CLA 界における動向を整理しておこう。昭和 39 年に造園設計集団が任意団体の日本造園設計事務所連合に進化し、今日のランドスケープコンサルタンツ協会に至るまで、約 50 年の歴史を重ねるが、私は次のように井上の足跡を見る。

日本造園設計事務所連合立ち上げから、高度経済成長期終焉の昭和 50 年位までを「黎明期」と捉える。当時井上は三十路前後で、未だ造園界全体が若く、今日のような組織レベルには程遠いものであったが、造園設計をランドスケープデザインのプロパー集団として捉えた近代造園設計研究所の存在意義は高く、そこで活躍された井上の同士の方々が多くの事務所を立ち上げられ、今日に至る。

一方、万博日本庭園の設計を担った AIN は、荒木造園設計事務所、井上造園設計事務所、西川造園設計事務所のイニシャルをとり結成された造園設計集団で、その流れは吉村元男氏が立ち上げた EDA 造園地域計画研究所に引き継がれ、今日の環境事業計画研究所に歴史を見る。並行して大阪府立大学、東京農業大学、京都大学、千葉大学等で緑地工学、造園学を修められた学窓の方々が事務所を設立され、これらの力が呼応協力して、日本造園設計事務所連合、日本造園コンサルタント協会関西支部の礎をなした。時代は千里・泉北のニュータウン事業、都市公園整備五箇年計画整備事業が活発化し、業界は若き人材が豊富で、井上もそのなか

で造園設計事務所連合の活動に参加し、ニューリーダーとして期待されたのである。

昭和 50 年を過ぎると、わが国の経済はしばらく安定成長の時代に入ったものの、中曽根政権による内需拡大策の展開から再び景気は上昇気流に乗り始め、わが国の建設事業は海外企業への市場開放が求められるほど活気を呈し、そのピークがバブル期であったもののやがて崩壊し、台頭して来たのが COP3、京都議定書で打ち出された気候変動の枠組みの見直しが、環境の時代到来を後押し、それを受けて平成 12 年にジャパンフローラ 2000 が開催されたのである。その間、概ね 20 年であったが、私はそれを「発展期」と捉え、井上は精力的に動いた。

日本造園コンサルタント協会の法人化(昭和 59 年)に伴い、井上は関西の造園設計事務所の先達の方々をサポートする立場にあり若手造園家を束ねた。井上は論客でもあり、国との交渉でも後れを取らず、雄弁の記憶は勇ましい限りだ。特に、大阪花博、淡路花博の会場計画においてはプロデューサー的な位置づけではなかったか。日本造園コンサルタント協会はランドスケープコンサルタンツ協会に改名され、井上は CLA の関西支部長、副会長、顧問の道を歩んだ。その業績はわが国の造園設計、ランドスケープコンサルタンツ界の発展貢献に寄与したということが認められ、黄綬褒章という形で国から表彰されたのである。

これを期に井上の活動は一区切りついたのかと思うほど、表舞台には立たなくなった。平成 14 年以後、今日までの 14 年が該当し、それは CLA 界の「成熟期」ともいえよう。

以上を包括すると、井上が果たした役割は、わが国のランドスケープコンサルタンツ界の「黎明期」を支え、公園の整備量産、質の向上、そして国際博覧会などのビックプロジェクトが目白押す「成長期」のなかでは、国・建築家などを相手に論陣を張り、仕事の専門領域を広げ市場を拡大し、ランドスケープコンサルタンツの職業認知、地位向上に貢献したと私は見る。そこにはランドスケープデザインの本質論を追究しながらも、自然再生、都市計画、マネジメントなどにも真正面から取り組み、ランドスケープアーキテクトの職業領域を広げたことは衆目が一一致するところである。

70

11. 終わりに

以上、速足だが井上の足跡を検証した。井上は、自らのことを口にする人ではなかった。そこで私が代弁してみたい。一つは「造園設計業が生業として原野に行く時代に、ビジネスとしての道筋をつけたこと。」すなわち造園から緑化、景観へとニーズが進化する中で、呼応するかのように関西の専門家集団の組織化発展に寄与し、特に国際博覧会では敏腕を発揮したこと。二つは「いかなる空間でも「快適性」を追究し、多様化するニーズに臨機応変に対応したこと。」時代は生態学、資源循環、マネジメントを求め、業務は多様化した。井上は臨機応変に対応し業務領域を広げたこと。三つは「常に時代の先を見ていたこと。」社会趨勢を捉え、国の考え方を読み、スタッフを育て先行投資された。それを裏付けるようにランドスケープアーキテクト、イラストレーター、大学教員などの多彩な人材を育成し、世に送られた。四つは「誠実、公平、平等な人間性に多くの人が集ったこと。」国際博覧会、緑化フェアなどを手掛けるにおいてコンサルタンツの意見を聞き、平等に仕事を配分され、情も深く人望を高めた。

このように井上が活躍出来たのも経営の達人、勝野肇の存在があったからである。そして、紹介した梅原徹、永野正弘、堀清、久田芳弘、杉井昌勝、横山浩二、そして中橋の、七人の侍が井上を支え、天下国家の仕事をさせて頂いたことに、私は勝手に誇りを持っている。

今日の専門誌を飾るランドスケープデザインの作品はモダン

で美しい。井上の作品は昭和と平成始めに見て、やや華美で重厚長大と時代性を感じるかも知れないが、その仕事を顧みると、自然、人工問わず空間づくりの普遍的な哲学を、私たちに伝えたかったのではないか。読者の皆様方にご一考賜ればありがたく存知5 ます。

このようなことを書くと井上はさぞかし立腹していることと思うが、不肖の弟子の最後のわがままをお許し願うとともに、今日の厳しいランドスケープコンサルタンツ界の現状を垣間みれば、井上の歩んだ道に現状打破、創意工夫の秘策があり、後に続く人10 の道標になれば幸いです。

終わりに一言、納棺時、井上に「ありがとうございました」と声をかけた。ご指導と恩情を賜り、なんと楽しく仕事をさせて頂いたことか、感謝の念は永遠である。

15 参考文献

- (1)坂本新太郎(1995)「わが国の緑地整備に関する研究」博士論文
- (2)伊丹市役所より提供
- (3)朝日新聞 2006 年 1 月 28 日朝刊
- (4)朝日新聞 2008 年 9 月 27 日朝刊 中野晋氏提供
- 20 (5)大阪府(2000)「箕面川ダムにおける自然回復の状況調査」
- (6)大阪市・(社)日本造園学会「第 23 回国際造園家会議日本大会(1985 年)記念・八幡屋公園基本設計計画競技作品集」
- (7)(財)国際花と緑の博覧会協会(1990)「E X 90 国際展示館記録集」
- (8)井上芳治・横山浩二(1998)「尼崎市都心の水辺空間造園作品選
- 25 集 No. 4 p70-71」(社)日本造園学会
- (9)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部(2000)「JAPAN FLORA 2000 LANDSCAPE DESIGN WORKS p4-5,22,64-65」
- (10)新建築 2000 年 7 月号表紙